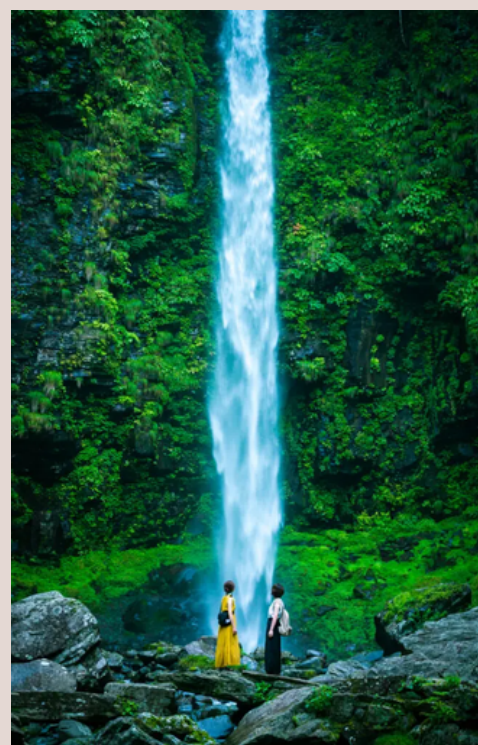


TABI TABI GUJO

令和8年8月 TABITABI郡上通信

郡上市観光連盟からのお知らせ



TABITABI郡上通信とは？

TABITABI郡上通信は、毎月発行の情報誌。郡上市観光レポートの考察に加えモニターツアーや商談会報告などの郡上市観光連盟の活動に加え、新規補助金や勉強会・講習会の案内、新たに造成したツアー商品、観光データなど、市内事業者が参考になるような最新情報をお届けしていきます。

TABITABI郡上のSNS（InstagramやTikTokなど）での紹介をきっかけに、投稿後に「フォロワー数が増えた」「実際に来店があった」といった反響が寄せられています。一部の事業者様からのお声をご紹介します。

今後もTABITABI郡上では、SNSを活用した魅力発信を続けてまいります。
※紹介を希望される事業者の方は郡上市観光連盟までご連絡ください。

ありがとう！TABITABI郡上のおかげでめっちゃお客様来てくれた。しかも紹介したアースゴールデンシュガー下さいって数人が。
影響力増し増し！助かります^ ^

観光庁「国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業」支援対象地域に選定されました！

郡上地域は、令和8年度観光庁「国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業」の支援対象地域に選定されました。

観光庁は、スノーリゾートへのインバウンド需要をタイムリーかつ的確に取り込み、地方への誘客を促進するため、「国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業」を実施しております。

令和8年3月23日（月）～令和8年5月15日（金）にかけて公募を行い、有識者等による審査を経て、郡上地域を含む、17地域が支援対象地域として選定されました。

本事業を活用し、市内スキー場におけるインフラ整備や受入環境の充実を進めるとともに、観光庁及び事務局による伴走支援を受けながら、「GUJO! SNOW & CASTLE TOWN」の実現に向けた取組を一層推進してまいります。今後も、市内スキー場をはじめとする関係事業者・関係団体が一体となり、郡上ならではの歴史・文化資源とスノーコンテンツを融合させた魅力ある観光地域づくりを進め、国際競争力の高いスノーリゾートの形成を目指してまいります。



※詳細を見る(ハイパーリンク)

【7/7（火）郡上市観光塾インバウンド対応能力強化研修を実施いたしました】

令和8年7月7日（火）、白鳥ふれあい創造館にて全国通訳案内士の白石実果先生を講師にお迎えし、「インバウンド対応能力強化研修 超初級編！」を開催いたしました。当日は郡上地域の観光施設に従事する方々を中心に、26名の皆様にご参加いただきました。

研修は終始明るい雰囲気が進み、ジェスチャーゲームでは、参加者の皆様が笑顔で交流しながら、言葉の壁を越えたコミュニケーションのコツを楽しく学んでいる姿が印象的でした。

また、お昼の昼食座談会も和やかな雰囲気となり、インバウンド対応への悩みや英語についての疑問など、ざっくばらんな意見交換が行われ、会員同士の交流も深まりました。

終了後のアンケートでは、非常に高い満足度をいただきました。特に以下のようなお声が多く寄せられています。

「訪日外国人のリアルな感覚や視点を知ることができて、とても勉強になった」

「難しい英語ではなく、単語やジェスチャーで良いという内容が非常に分かりやすかった」

「明日からすぐに実践できそうな自信がついた」

【事務局より】

今回の研修を通じて、インバウンド対応は決して難しいことではなく、まずは「伝えようとする気持ち」が大切であることを改めて共有することができました。

今後も郡上市を訪れる外国人観光客の皆様を温かくお迎えできるよう、実践的な学びの場を提供してまいります。ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。



【郡上市ふるさとワーキングホリデーが開催されます】

地域外の若者等が一定期間市内に滞在し、地域の事業所で働きながら、地域の暮らしや人との交流を体験する「ふるさとワーキングホリデー」が実施されます。本事業は郡上市産業支援センターが事業全体のコーディネートを行い、業務運営を（一社）郡上・ふるさと定住機構が市から委託を受けて実施されるものです。

本事業は、地域での仕事や暮らしを実際に体験してもらうことで、郡上市との継続的な関わりや将来的な移住・定住などにつなげていくことを目的とした取り組みです。

今年度の1回目が8/25～9/8(14泊15日)に実施され、市内から6事業所が受け入れ先として参加。募集には全体で約23件の申し込みがあり、その中から6名の参加者が決定しました。

参加者は市内の事業所で働きながら、約2週間郡上に滞在し、地域での暮らしや交流を体験します。TABITABI郡上通信では、実際に参加者が働く様子や、地域で過ごす様子についても、今後紹介していく予定です。

また、冬季にも同様の企画が予定されています。

冬のふるさとワーキングホリデーについても、詳細が決まり次第、TABITABI郡上通信でもお知らせします。



「働く×旅する×出会う」郡上でしかできない2週間
人とつながる、場所とつながる、心つながる郡上のワーホリ



※詳細を見る(ハイパーリンク)

R8年6月度観光レポート考察

宿泊客数

22,046人

前年同月比 92.4%

R1年比 75.5%

(観光レポート2P～)

6月の宿泊客数は22,046人となり、前年同月比92.4%で減少。

例年通り、高鷲の「ホテル」や八幡の野外体験施設を中心に学校団体の利用が多く見られ、市内宿泊客数を下支え。「東海」や「関西」からの利用が多く見られた。一般については「キャンプ場」や「コテージ」で利用が伸び悩み、ゴールデンウィーク後の観光需要の落ち着きに加え、週末を中心とした天候不良が影響したことが施設への聞き取りから分かっている。

地域別では、「北陸」からの個人宿泊客が八幡・大和地域のホテルで増加しており、一般客の利用が増加傾向にあることが聞き取りから確認。今後も来訪目的を調査し継続して動向を把握していく。

一方、前年に高鷲地域のホテルで見られた「関西」からの教育旅行が、今年は旅程やスケジュールの変更により実施されなかったことなどが影響し前年を下回った。

外国人宿泊客数

742人

前年同月比 107.7%

R1年比 59.2%

(観光レポート3P～)

外国人宿泊客数は742人で、前年同月比107.7%と増加。

高鷲では「韓国」からゴルフ目的の連泊が引き続き安定して見られた他、大和では「アメリカ」のホテル会員利用や「香港」「台湾」「シンガポール」などからの周遊型観光による個人利用が堅調に推移して前年を上回った。

一方「タイ」については一部ホテルで団体利用が見られたことで前年を上回ったものの、令和元年と比較すると周遊ルートの変更などにより大幅に減少している。

施設入込客数

264,598人

前年同月比 98.4%

R1年比 99.5%

(観光レポート5P～)

施設入込客数は264,598人で、前年同月比98.4%と減少。

釣果が好調であったことで鮎釣り客が増加し「アウトドア」が前年を上回ったほか、郡上八幡のまちあるきや古今伝授の里フィールドミュージアムの利用増加により、「歴史・文化」も前年を上回った。古今伝授の里フィールドミュージアムについては、中高年グループによる歴史散策や写真撮影を目的とした来訪が増加傾向にあることが、施設への聞き取りから確認された。その他「子宝温泉 円空の湯」の営業開始により、「温泉」も前年を上回った。

一方、野外体験施設の団体利用の減少により「スポーツ・レクリエーション」が前年を下回ったほか、週末を中心とした天候不良の影響により「自然」や道の駅などの「買物」で立ち寄り利用が伸び悩む傾向が見られた。

Webサイトアクセス数

125,581

セッション

前年同月比 100.5%

(観光レポート6P～)

令和8年6月のWebサイト流入数は125,581セッションで、前年同月比100.5%と前年並みで推移。

自然検索（Organic Search）が全体の約8割を占めたものの、流入数は前年から微減。ゴールデンウィーク明けによる観光需要の落ち着きや物価高の影響により、来訪を伴う検索需要が前年より伸び悩んだことが要因と考えられる。

その一方で、イベントや季節コンテンツに対する検索需要は堅調に推移。特に「郡上おどりin青山」に関する検索が多く見られたほか、当イベントについては「Enjoy Tokyo」や「東京フェスタ」など首都圏のイベント情報サイトからの流入も確認されており、関東圏での認知が少しずつ広がっていることが推測される。

また、初夏のコンテンツである「和良堂」も検索・閲覧が多く見られた。「和良堂」は毎年安定して検索・閲覧数が増加しており、継続的な情報発信により、季節コンテンツとしての認知が着実に広がっていることが伺える。実際に今年は一般ユーザーによるSNS投稿も多く見られた。

流入のユーザー属性では、「愛知」「東京」「岐阜」「大阪」が多くを占めたが、来訪を目的とした詳細な検索が伸び悩んだことで前年を下回った。

一方で、「静岡」や「北海道」「京都」からの流入は増加しており、表示順位の上昇に加え、郡上おどりや郡上八幡をきっかけとした認知が全国へ広がりつつあることが推測される。

その他、情報収集の手段にも変化が見られた。新たにAI Assistant経由の流入が180セッション確認され、生成AIを活用した情報収集からの流入が見られ始めている。今後はSEO対策に加え、SNSや生成AIからも参照されやすいコンテンツ整備を進め、多様な流入経路を確保することで、さらなる流入強化につなげていく必要がある。

R8年6月度観光レポート考察

メールマガジン成績 (観光レポート9P～)

6月は、「蛍」「鮎」「新緑スポット」といった季節の観光情報に加え、「ひるがの高原の新宿泊施設&割引キャンペーン」や「ふるさと納税のおすすめ返礼品」など、**計10トピックスのメールマガジンを配信**。

平均開封率は21.4%、リンククリック率は3.2%で前月並みの成績に。開封率は5月の22.2%をやや下回ったものの、関東在住者向けに配信した「郡上おどりin青山情報」がリンククリック率10.2%を記録するなど、全体のリンククリック率は5月の2.7%を上回った。

個別のメールマガジンでは、「郡上おどり講習会・出張公演情報」がリンククリック率5.9%を記録したほか、蛍、白山信仰の新緑スポット、鮎料理の紹介も3～5%台と高い反応を獲得。季節や地域性の高い情報への関心は高く、興味に応じたセグメント配信やタイムリーな情報提供が効果的に作用していることが読み取れる。

一方、事業者と連携して実施した「ひるがの高原の新宿泊施設&割引キャンペーン」は、リンククリック率が伸び悩んで予約には至らなかった。今後は、旅行を検討するタイミングに合わせた配信や、行動を起こしたくなるような内容を工夫し、予約につながるメールマガジンへと改善していく。

また、ふるさと納税の寄附申込時にTABITABI郡上経由の流入を5月からアンケートで計測しているが、**7月15日までに累計13件・221,000円の寄附**が確認され、一定の成果も見られた。

一方でメールマガジンのクリック率は1～2%台に留まっており、観光情報を目的に登録しているユーザーに返礼品情報を単独で訴求するものの、関心を得られにくい傾向が引き続き見られる。今後は、季節の観光情報と関連付けて返礼品を紹介するなど、観光情報との親和性を意識した内容や見せ方を工夫し、自然な形で寄附へつなげていく。

SNS成績 (観光レポート9P～)

6月は「おどり出張公演」「無料講習会」「ダンシングポリス」などの踊り関連情報に加え、未紹介店舗など**計28件を投稿**。

閲覧数は1,113,646回（前月比115.2%）、インタラクション数は24,420回(前月比116.5%)で、**フォロワーも583人増加**し、いずれも前月を上回る成績に。28件という高い投稿頻度を維持しながら、反応の高い店舗紹介やおどりコンテンツを多く発信したことで、新規ユーザーへのリーチとフォロワー獲得につながり、効果的な運用が行えている。

個別投稿では、初めて紹介した「蕎麦茶寮 文福 笠井」が11万回を超える再生と1,500件のいいねを獲得し、月間トップの成績を記録。また、同じく初めて紹介した「カフェほしの里」も5万回を超える再生を獲得するなど、新規店舗の発信が高い反響につながっている。

おどり関連では、「ダンシングポリス」や「郡上おどり無料講習会」の投稿が好評で、郡上おどりの魅力を新たな切り口から発信できたことが、高いエンゲージメントにつながった。7月からはおどり会場からのライブ配信やリアルタイムでの情報発信を強化するとともに、TikTokも積極的に活用し、若年層を中心とした新規ユーザーへさらなる認知拡大を図っていく。